

研究部テーマ「生徒の語いサイズを広げる指導の工夫」への提言

日時：2017年3月3日（金）

講師：玉川大学教授 日臺 滋之 先生

1. 先行研究から

①コミュニケーションと語彙

...while without grammar very little can be conveyed, without vocabulary nothing can be conveyed.

(D.A.Wilkins, 1985:111)

Provided one knows the appropriate vocabulary, then some form of interchange of language is possible. Without the vocabulary it is impossible.

(D.A.Wilkins, 1985:111)

・・・と、あるように、文法がなくてもほんのわずかのことは伝えられるが、語彙がなければ、何も伝えられない。もし適切な語彙をわれわれが知っていれば、なんらかの言葉のやりとりは可能になる。語彙がなければそれが不可能である。語彙がどれだけ重要かということがわかる。

教科書は文法シラバスになっているが、語彙がコミュニケーション上なくてはならないと思わせてくれるという点で先駆的である。

②インプットとアウトプットとの関係

input → intake → L2 knowledge → output

(Ellis, 1997:35)

Ellis の第2言語習得のコンピューターモデルに示されるように、input が output されるまでには、intake と L2 knowledge の経過をたどる。この2つは頭の中で行われているので見えにくい。音として耳に入ってくる input は、すぐに消えて行ってしまう。しかし、intake (摂取) されれば、短期記憶となる。それが L2 knowledge として長期記憶になる。人は L2knowledge を使って output を行う。intake をどう L2 knowledge にもっていくか、そしてそれをどう output させるのか。

③語彙が定着するために必要なプロセス

・ noticing — retrieval — creative (generative) use
(気づき) (想起、思い起こし) (創造的 (生成的) 使用)

- ・ We cemented the path.
- ・ We cemented our relationship with a drink.

(Nation, 2001:63)

- ・ Creative or generative use of a word refers to using the word in a way that is different from the original encounter.
- ・ Water will freeze at 32 degrees Fahrenheit.

- The computer will freeze if you run too many programs at the same time.
- degrees of generation
- He squandered the money.
- He squandered a lot of money.
- He squandered an opportunity.

(Folse, 2004:143)

授業の中で、教師は、フラッシュカードや辞書を使って、語彙に注意を向けさせている。(notice)

その後、その知識を帯活動などで思い起こさせている。(retrieval)

それを、どう creative use にもっていくか。

語彙を習得するためには、「暗唱」だけでは足りない。それを自分の言葉を使って人に聞かせるところまでもっていけば、習得したと言えるかもしれない。

(例) ある学生が中学生のときに、Mother Teresa の物語を暗唱したことがある。1分か2分 retrieval の時間をおいて、暗唱できた。その覚えたものを使って、この the は？この文法は？と役立てているかと聞いてみると、「それとこれとは違う。」という答えが返ってきた。なぜか？丸暗記が目的になっているからではないか。たとえば、そのお話を、ALT に自分の言葉で伝えてみるなどしていれば違ってくる recitation で終わらずに、それを使って何をするかが大切。授業の中で、creative use の場面を作らなければならない。

最初にその語彙と出会ったときとは異なる使用ができるようになることが必要。

最初に教科書を読んで、初めてある語彙を学んだ。話すときにその語彙を使えば、creative use となる。

先日の中英研研究部の太田裕也先生の公開授業では、生徒同士が言葉のやりとりをしていたが、そういう活動が大切。

高校生が学んできた言葉を使って話をしていない大学生が多い。中学校でやらなければどうなってしまうのか。言葉を使って実際に書いてみる、メッセージを e-mail で送る、昨日の生活を授業の初めに話してみる、好きな映画について話し合う。こういう活動が generative use になる。

2. 中英研研究部への問題提起

コミュニケーション活動で必要となる語彙へ

「生徒の語彙サイズを広げる」というとき、どれだけたくさんの語彙を知っているかの側面(breadth)と、どれだけ語彙を深く知っているかの側面(depth)がある。

(例) breadth → Interest を知っていれば、interesting や interested も知っている。

depth → play the piano という使い方だけでなく、play baseball against~のような使い方を知っている。

また、語彙の使用頻度による標識もある。研究部では、どのような語彙に着目するのか？

学習者にとって、コミュニケーション活動で必要とされるのはどんな語彙か？

私たちは、学習者が表現活動で本当に必要とする語彙を教えてきたのかどうか？それを振り返ることができるのは、中学校の教師だけだ。中学生がどういう興味をもっているかを知っているのは中学校の先生だけ。大学の先生でも、高校の先生でもない。「現場型リサーチ」を目指してはどうか。

3. EasyConc.xlsm とは

- ①通常のコーパスと違い、「学習者が表現したかったけれど、表現できなかったこと」を集めたコーパス。日本語と英語の一対一の、日英パラレルコーパスになっている。
- ②授業のコミュニケーション活動（チャットや **story retelling** など）のなかで、言いたくても言えなかった表現を生徒から日本語で集める。ALT と JT で英訳をする。それをエクセルに入力する。15のテーマ別と、文法のマーカーを入力する。

4. EasyConc.xlsm をどんなことに使えるのか。

①和英辞典を補完する役目。

辞書を使っても、言いたい表現が見つけれられないときに。
自己表現活動のレファレンスとして。

②教師が教材作成するときに活用する。

- ・コミュニケーション活動をする前に、関係するテーマで検索し、使いそうな語彙をピックアップして事前に導入する。リストで渡したり、ビンゴを利用したりする。
- ・教科書でどのように使われているのかを調べ、頻度の少ない使用の仕方を意識して提示する。
- ・ワークシートの例文として活用する。

③生徒の質問から

- ・「引退試合」どう訳す？
- ・「～のせいで」「～のために」と **because** が結びつかない
- ・「～ながら」が言えない
- ・時代がかわっても学習者がつまずく表現は同じだ。
- ・教科書では、**Because** を文頭で使う表現が多い。1文が長くなるのを好まないの。
- ・学年が上がれば自然に言えるようになるということはない。教えなければできるようにはならない。中学校でよく出た質問は、高校でも質問されることが多かった。
- ・**else** の意味は知っていても、使えない。

5. 最後に

- ・現場型リサーチは、中学校教師にしかできない。
- ・研究部員全員がそれぞれ持ち寄れば、大きなデータの集積となる。
- ・同じ質問が重複してもよい。違う学校、違う地域で同じ質問が出るということは、非常に意味がある。普遍的なものであるということ。
- ・いろいろな **output** 活動をする。言いたくても言えなかった表現を集める。パラレルコーパスが作れば、インプットする語を選別できる。
- ・データの集め方

(例1) 教科書の言語材料に合わせてやってみる。

過去形を学習したら、過去形の表現を使うときに必要な語彙は何だろう。

play baseball だけで終わらず、play baseball against～

(例2) 話題の配列で考えてみる。

- 1 日常生活
- 2 学校 (勉強、勉強以外含む)
- 3 仕事
- 4 旅行・買い物
- 5 ファッション (服飾・美容)
- 6 趣味・娯楽
- 7 家族・友人関係 (プレゼントほか含む)
- 8 天気・気候・地震
- 9 健康
- 10 食事・食べ物・料理
- 11 地理・交通
- 12 政治・社会問題
- 13 日本紹介
- 14 日本語独特の表現 (擬態語・擬音語なども)
- 15 感情表現 (喜怒哀楽、やる気、怠けるなども)